

10年の歩み



2005年に初当選させていただいてから、おかげ様で10年を迎えることが出来ました。この間、瀬戸大橋料金の値下げ、高速4車線化、丸亀町再開発、港湾整備、公共交通機関への経営支援、島嶼部ガソリン値下げなど地元振興にも積極的に取り組んで参りました。また2009年には総務大臣政務官を拝命し、プロジェクトチームの座長として特約的と言われていた地方議員年金廃止にも尽力致しました。



衆議院議員

はじめに

第二次安倍政権が発足して3年、「アベノミクス」による株高、インフレ、雇用環境の改善が言われてきました。しかしそれは「本物」だったのか。むしろ表面的なものではなかったのか。年明け以降の株価の低迷が示すとおり、3年経った今、改めてその正当性、そして危険性が問われています。

異常な金融緩和で日銀が抱え込んだ国の借金は既に300兆円を超え、インフレの要因も主に円安や原油高といった外的要因、さらに雇用拡大の中身はほとんどが非正規。社会保障への将来不安や、世代を問わず広がる貧困と格差は全く解決されず、むしろ手つかずです。

改めて思います。本当にこのままで良いのか。アベノミクスから3年たった今、むしろ儚い夢から目を覚まし、改めて日本の根本問題を見据え、将来に向けた本格的な改革論議をスタートさせるべきではないか。「今の安心」と「将来への希望」のために、一刻も早く「本物の改革」を実行に移したいのです。



右肩上がりの時代に作られた社会を、新しい時代のものに創り変える。これは私たち世代の務めだ。世界最先端の成熟国家へ。

衆議院議員 小川淳也

ご支援・ご協力をお願い

をしてFAXをいただくと事務局からご連絡させていただきます。

1 後援会活動

- 里親寄付：月々500円(1口)~のご支援(口座振替)
- 支援寄付：年間1,000円(1口)~のご支援(お振込等)
- ポスター掲示のご協力
- 室内作業のお手伝い
- ミニ集会の開催

じゅんじゅん会に参加しませんか?
毎月1回例会を開催中、小川の国政報告や封読作業などを行っています。
 参加

2 党活動

- 党員 年会費：6,000円
- サポーター 年会費：2,000円

詳しくは小川淳也事務所までお問合せください。

3 書籍購入

- 日本改革原案 購入1,512円(税込)

ポスターを掲示していただける方ぜひ、ご協力をお願いいたします。

国政報告会

<開催予定>

毎月中学校区ごとに国政報告会を開催させていただいております。是非ご参加いただき皆様のご意見をお預かりさせていただきます。

皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

第189回 香東中学校区 国政報告会

■日時：2月21日(日) 午後1時~2時30分
■場所：川岡コミュニティセンター (高松市川岡町 486-1)

第190回 紫雲中学校区 国政報告会

■日時：3月27日(日) 午後1時~2時30分
■場所：龜阜コミュニティセンター (高松市宮脇町 1丁目 6-18)

第191回 太田中学校区国政報告会 (4月予定)
第192回 屋島中学校区国政報告会 (5月予定)

※会場まで来られるのに不便な方は送迎させていただきますのでご連絡下さい。
※当日ご都合が悪く来られない場合は、どうぞ遠慮なくご意見等をメール、FAXにてお寄せください。

みなさまのお声をお聞かせください!

項目にご記入の上、FAXをお送りいただくと幸いです。
ご自由にご意見ご要望をお寄せください。

FAX 送付先 小川淳也事務所
087-815-1189

お名前	ご住所
電話番号	e-mail

渾身の思いを込めた「日本改革原案」の中身 (講演録より)。

~不都合な現実をあえて直視。意味ある負担を勇気をもって語る。真の突破口はそこにしかない。~

拙著『日本改革原案』の中身について、お話しさせていただきます。率直に申し上げて、**不都合な現実も含めて直視し、それを乗り越える勇気を持たなければ、この社会を次世代に引き継げない。**そういう思いで、いっしょにお考えいただきたいのです。

いつの世もバラ色だけの時代はありません。その時代、その世代なりに必ず苦勞があり、全ての世代がそれを乗り越えて来たからこそ今があります。では私たちが今の世代分の責任を果たすにはどうすべきなのか。真の希望は、その苦心や苦勞を乗り越えた先にこそあるのではないかと、そんな思いです。

政権が交代し、第二次安倍政権が発足して3年余りが経過しました。政権運営という意味では、極めて巧みで優れている、つくづくそう感じます。しかし政策に関してはどうでしょうか。

内外から注目されたアベノミクスですが、**実質的な中身は異常なまでの金融緩和だけです。要するに日銀が大量に国債を買って、お金を市中に流すことによってインフレ期待値を高める。これはズバリ言えば、貨幣の価値を下げるということです。**当然その裏返しとして土地、株の値段が上がり、円が安くなりました。これによる資産効果や消費拡大がもたらされたことも事実です。しかし、こうした金融緩和で日本が抱えている構造問題が片付くことは、決してありません。問題解決に当たって、アゲントの風をフォローの風に変える程度の効果はあっても、登るべき山の険しさや厳しさそのものを変えることは出来ません。

いまだに野党は四分五裂した状態で対抗勢力になり得ていません。当時の民主党政権への失望が和らぐには、まだまだ時間がかかり、結果として安倍政権の支持率は依然高い状態にあります。しかし、この3年間を見る限り、**安倍政権が今の日本が抱える構造問題に根本的に貢献するものではない**ということ、やはり申し上げなければならぬのです。

私自身、**長期構想、長期ビジョンを視野に、不都合な現実も直視するからこそ芽生える真の希望に対して、まっすぐ貢献して行く。それこそが私たち世代の、特に野党に所属する政治家として大切にすべき視座**だと思っています。そしてこの書籍にまとめる過程において、30代、40代を中心とする仲間たちと3年の歳月をかけて議論を重ねました。この国の現状をどうとらえ、それを正しく変革していくために、どうアプローチすべきか。その場合のリスクは何で、そこをどうコントロールしながら未来に向かうのか。それをまとめていただいたのです。



2050年 成熟国家への道 ~これ以上、次世代につけを残さない~

内容を要約して申し上げます。この本を出版するに当たって最初に意識したのは、田中角栄元総理の『日本列島改造論』でした。書かれたのは1972年。当時、日本国民の平均年齢は32歳でし

た。日本の人口はちょうど1億人を越えたころです。高度成長の恩恵が太平洋側には行き渡る一方で、なかなか地元の新潟には届かない。「経済成長による富の恩恵を、日本列島の隅々まで行きわたらせる。その手段は